

1) 太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰靈塔



※写真提供 姫路市



基本情報

所 在：手柄山中央公園内
 住 所：兵庫県姫路市西延末440
 (JR姫路駅・山陽電車 山陽姫路駅より 神姫バス「手柄山中央公園」下車すぐ)
 連絡先：財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰靈協会（事務局 姫路市福祉総務課内）
 079-221-2303（直通）
 建立者：太平洋戦全国戦災都市空爆犠牲者慰靈協会
 建立年：昭和31年10月26日

碑 文

【表】

太平洋戦全国戦災都市空爆死没者の
 署
 此のところに眠る

【裏】

太平洋戦争の惨烈なる兵火は昭和二十年八月十五日わが日本の無條件降伏によって終息したその後約七年の間わが国は連合國軍の占領管理のもとに置かれたが昭和二十七年四月二十八日サンフランシスコ平和条約の発効によって漸く國家主権を回復することができたこれに伴い政府はこの戦争の犠牲となつて死没した軍人軍属に対する敬弔とその遺族に対する慰藉の方途は一應これを定めたが身に何等の防備なくして無慙なる空爆のなかに敢なく非業の死を遂げた幾多の無辜の市民については全くこれを顧みるところがなかつたここにおいてあの曠古未有の戦災を蒙り廢墟と化した全國百十三の都市を糾合して結成された全國戦災都市連盟は昭和二十二年一月その結成以来主力を戦災復興に盡して來たがたゞに形の上の復興のみに終始する事なく政府の施策にもれた戦災都市空爆死没者の慰靈をも併

りとは雖もかくも荒廢を來しその復興はかくも難行苦行をもたらすものであることを後世に傳え洋の東西を問わざ生きとし生けるもの強く相携えて戦争防止への最善を致すべきであることを訓えるものであつてこの慰靈塔に詣する者の聲は世界の隅々へまで平和の祈りの聲として響き傳わることを念じて建立されたものである

昭和参拾壹年
 全國戦災都市連盟
 名譽會長 衆議院議員 大野伴睦
 會長 姫路市長 石見元秀
 副會長 鹿児島市長 勝目清
 同 富山市長 富川保太郎
 同 徳山市長 黒神直久
 同 布施市長 鈴木義仲
 同 長岡市長 内山由藏
 支部長 副支部長

説明文

太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰靈塔

この塔は先の大戦で空爆の犠牲となられた方々への慰靈に資するため、全国からの浄財により1956年（昭和31年）10月26日に建立されました。

現在は109都市（東京都を含む）が加盟する財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰靈協会が維持管理を行っています。

中央の塔身部は刀を地中に埋めた形で「もう戦争はしない」ということを表現しており、側柱には建設にかかわった全国戦災都市連盟（113都市加盟）の被災記録などが刻まれています。

竣工以来、毎年10月26日に塔前においてこの浄域に眠る加盟都市50万9700余柱の犠牲者を追悼する平和祈念式典を挙行しています。

②太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式



開催概要（平成23年度）

歳 事 名：太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式
 会 場：手柄山中央公園
 （JR姫路駅・山陽電車 姫路駅より 神姫バス「手柄山中央公園」下車すぐ）
 日 時：平成23年10月26日（水）※例年10月26日開催
 参列者数：約500人
 連絡先：財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰靈協会（事務局 姫路市福祉総務課内）
 079-221-2303（直通）

式次第（平成23年度）

1. 開式
2. 黙とう
3. 式辞：財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰靈協会理事長
4. 追悼のことば：内閣総理大臣、全国市長会会長、兵庫県知事、姫路市議会議長
5. 献花・千羽鶴
6. 閉式

式辞（平成23年度）

式辞

本日ここに、ご遺族並びにご来賓各位のご参列のもと、平成23年度 太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式を執り行うに当たり、この浄域に眠る、百十三都市五十五万九千七百余の御靈に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。

諸靈は、東京、大阪をはじめ、全国各地を標的とした空爆により、悲しくも犠牲となられたものであり、残されたご遺族の皆様の深い悲しみを思うとき、今なお深い悲しみが胸に迫ってまいります。ここに、心から哀悼の意を表します。

数多くの尊き命が失われた先の大戦から六十六年の歳月が過ぎ去りました。当時は空爆のため、全国の主要都市が壊滅的な被害を受け、その機能は麻痺状態に陥りました。

しかしながら、戦後、我が国は焦土の中から立ち上がり、幾多の困難を乗り越え、国民一人ひとりのたゆまぬ努力により、めざましい発展を遂げ、平和文化の薫り高い、民主国家に生まれ変わりました。

また、空爆を受けた各都市においても、廃墟と化した戦災の傷跡から、多くの試練を克服し、個性と魅力のある都市づくりに邁進され、発展を遂げてこられました。

この間の試練とご苦労は、筆舌につくし難いものがあつたと拝察いたします。

とりわけ、ご家族を亡くされたご遺族の皆様の今日までのご苦労と悲しみは、どういって言葉に言い表すことができません。戦後、年月の経過と共に、戦争を知らない世代が増えておりますが、戦争体験を風化させないよう、この平和で豊かな今日においてこそ、空爆の犠牲となられた方々に思い馳せるとともに、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、平和の尊さを発信し続けていくことが、我々に課せられた重大な責務であります。

全国民の平和のシンボルとして、空高くそびえ立つ、この慰靈塔に列せられた皆様の、恒久平和を強く願う祈りが、思いを同じくする全世界の人々に届けられんことを念じつつ、先の大戦で学んだ多くの教訓を改めて深く心に刻み、平和で豊かな社会の実現のため、一層の努力を擧げることをお誓い申し上げますとともに、御靈がとこしえに安らかならんこと、また、ご遺族の皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、式辞といたします。

平成23年10月26日
 財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰靈協会
 理事長 石見 利勝

追悼のことば（平成23年度）

「平成二十三年度太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式」における内閣総理大臣の追悼のことば

本日ここに、太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式が挙行されるに当たり、謹んで追悼のことばを申し述べます。

終戦から六十六年が過ぎ去りました。どれだけ月日が流れようとも、心ならずも戦禍の中で亡くなられた犠牲の方々への思いは、決して消え去ることはできません。

東日本大震災で、私たちは、今ここにある命が一瞬のうちに奪われ、長年培った郷里や家族との暮らしが無残に引き裂かれる不条理を目の当たりにしました。多くの国民が、今、先の大戦に身を置いた同胞たちの悲しみ、苦しみ、そして無念さを、我が事に照らし合わせて、強く思い致しています。

改めまして、全国の空爆犠牲の方々の御冥福を心からお祈りするとともに、最愛の肉親を失った悲しみに耐え、苦難を乗り越えてこられた御遺族の皆様に、深く敬意を表します。

我が国は、戦後の廃墟から立ち上がり、幾多の困難を乗り越えながら、平和と繁栄の時代を築いてきました。その原動力となったのは、国民一人一人の平和への願いと、それに裏付けられた各国・各地域との友好関係に他なりません。大震災後に世界各国から寄せられた支援はその証左であり、私たちに希望と勇気を与えています。

平和への思いを分かち合い、世界の人々との「絆」を更に深めていくためにも、悲惨な戦争の教訓を語り継ぎ、広く世界に発信していくことも欠かせません。戦争の惨禍を二度と繰り返すことのないよう、今後とも、各国との友好関係を基礎として、世界の恒久平和の確立に全力を尽くすことを、ここに改めて誓います。

終わりに、皆様方の御平安を心から祈念して、追悼のことばとします。

平成23年10月26日
 内閣総理大臣 野田 佳彦